

金山町指定文化財 木小屋と桶枯場

杉皮屋根 みんなの手で

ふき替え、住民100人協力

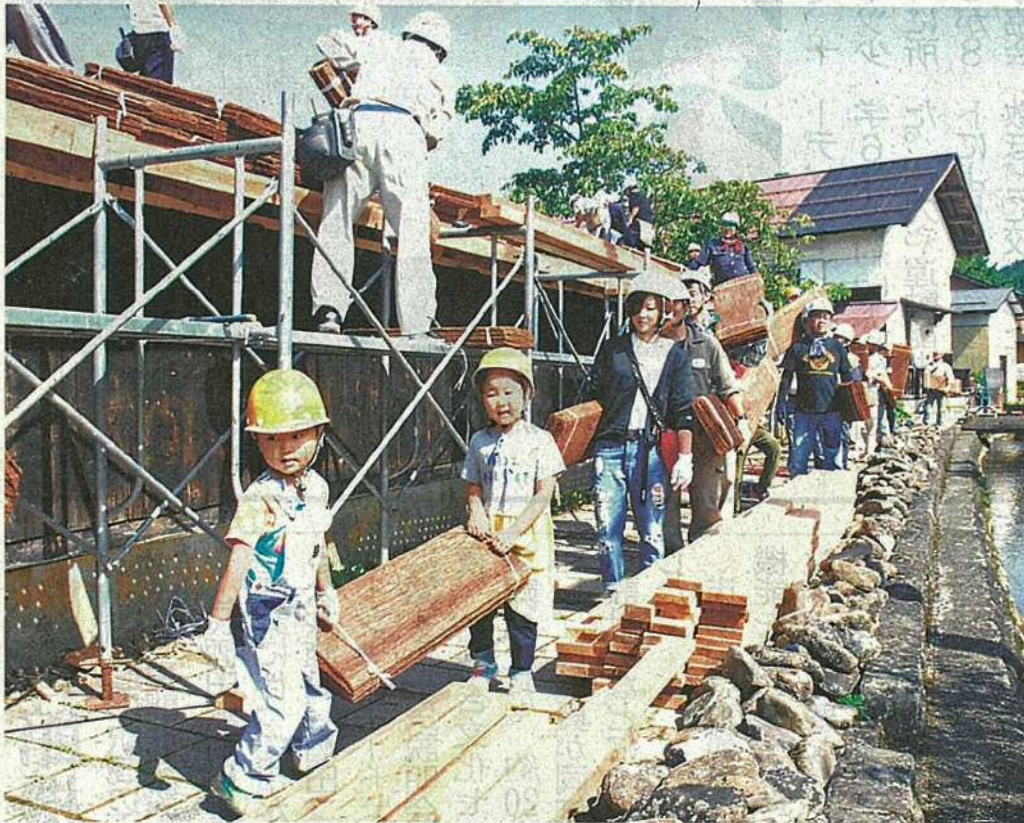
今年3月に金山町指定文化財になった「いちやま岸家の杉皮葺(ふ)き屋根の木小屋と桶枯場(おけからすば)」(同町・大堰公園)で9日、屋根のふき替え作業が行われ、地域住民約100人もボランティアで参加し、補修に当たった。

明治時代から存在するといわれる町内唯一の杉皮屋根の建物で、町の名所である「大堰」の景観の一つになっているが、前回のふき替えから約20年がたち、杉皮の腐食や木材の破損など老朽化が進んでいた。これまでは業者が作業をしてきたが、地域住民により親しみを持ってもらおうと、所有者と町内の大工らでつくる「杉皮屋根を残す会」(星川敏広実行委員長)が初めてボランティアの協力を募った。

参加者は杉皮約2千枚と、押

さえの石約10トを運ぶ作業を手伝い、屋根に上がった大工に一

つ一つ手渡した。地元の子どもたちも参加し、住民が一致団結して町のシンボルを改修した。団体職員阿部辰紀さん(32)「同町金山IIは「金山」といえば、このことのような、なじみの深い場所。自分たちの手できれいになるのは誇らしい」と話していた。



杉皮屋根のふき替え作業を手伝うボランティア
＝金山町・大堰公園